

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1192400156		
法人名	有限会社アートライフ		
事業所名	グループホームあおぞら川角		
所在地	埼玉県入間郡毛呂山町川角504-1		
自己評価作成日	令和5年1月15日	評価結果市町村受理日	令和5年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和5年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様に安心して過ごしていただけるよう家庭的な環境作り、スタッフの対応を心がけている。ご利用者様の小さな変化を見逃さず、必要に応じて医療とも連携をとりながらチームワークのとれたケアの実現に向け取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・利用者の個性や持っている能力を活かすように、利用者のための介護の視点で、自立支援を支える努力をされているため、家族から「本人が笑顔で気持ちよく生活していることがわかり安心して」、「認知症の症状に対応しトラブルを防止してくれている」等の言葉をいただいている。  
 ・運営推進会議は、新型コロナウイルス感染予防のため書面開催され、定期的に事業所の様子が情報共有されている。また行政からのアドバイスや地域包括支援センターとの連携も意識され、地域や家族等との協力関係の構築に活かされている。今後は対面での開催を再開できるように調整もされている。  
 ・目標達成計画の達成状況についても、思いや意向の把握として、アセスメントの様式が見直され、生活歴を反映させることで利用者の視点で考え、利用者本位のケアプランの検討が実践されたことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	法人の理念を事業所理念として地域に根づいた施設となるように職員全員で共有し、実践につながるように努めている	法人の理念が事業所の行動指針として「利用者の身になって」を心掛けながら「ありがとう」の言葉を大切にされている。そのため、家庭的な雰囲気の中、利用者職員、地域とのコミュニケーションも良好に保たれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加してコロナ禍以前にはたくさんの方たちと交流できていたが、今はドライブで近隣を時々回っているのみである。	長年にわたり、地域住民からの理解が得やすい関係づくりに努力されているため、コロナ禍であっても散歩や外気浴の際のあいさつ等で地域との繋がりを継続されている。	コロナ禍で地域住民との交流の機会は減少していますが、今まで築き上げてきた実績を基に登下校時のあいさつ運動に職員や利用者が参加する、子ども110番制度への登録、などの協力関係を築いていくことが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前には地域の中学生の職場体験や福祉体験、看護学生の実習受け入れを積極的に行い、認知症ケアの実践を生かしていた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長・民生委員・役場介護保険課・ご家族に参加して頂き2ヶ月に1度会議開催を行っている。11月からは久々に対面での会議開催ができた。今後も続けていきたい	コロナ禍での臨時的取扱いとして、開催できないことの代替として地域や家族、市担当者等に文書で活動の報告などを伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で町の担当者の方や包括支援課より参加していただき、利用状況の報告や相談など話を聞いていただいている	日頃から連絡をとり、地域の情報や市の取り組みなどを教えてもらっている。また、運営推進会議の開催方法を相談するなど協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の社内研修実施を行う中で、必ず身体拘束廃止委員会を開催している。玄関の施錠は行政承認の上、離脱防止・不審者の侵入防止の為に施錠している	身体拘束廃止委員会が開かれ、研修やカンファレンスも含めた話し合いが行われており、身体拘束をしないケアの意識は職員に正しく理解されている。また職員にセルフチェックシートをつけてもらうことで意識づけが図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を実施している。更衣や入浴時に身体チェックを行い痣や傷の発見時には報告書作成し情報の共有を行っている		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修の他必要が生じた方については関係者と話し合いの機会を持っていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学・入居申し込み・契約・入居の各段階に必要な説明を行い、不安・疑問点についてはその都度説明し対応していく。改定時にはその理由を明確にして理解していただくようにしていく		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事、面会等の際にご意見など伺っている。ご意見は会議で報告し会社へも毎月報告し、運営に反映させている	毎月の近況報告や行事の際の様子が家族に送付されているため、具体的な支援方法や事業所の対応に対する意見も多く、感染対策を工夫しながらの面会の実施に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常業務や会議で職員の意見や提案を聞き報告し、施設や職員の資質向上に反映させている。本会議時に報告し必要に応じて施設を支援している	代表者や管理者との隔たりがなく、日頃から細やかなコミュニケーションが図られている。ミーティングの場でも自由な意見交換がされており、積極的に職員からの提案が取り入れられている。今年度はコロナ禍で制限がある中でも季節感のあるイベントの工夫や、人員不足への対応が実践できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と個別面談を管理者が行い、その結果や日々の努力・勤務状況について報告している。上長は本会議時に報告し昇給に繋げる他資格取得支援を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な内容が勉強できる様、eラーニングを取り入れるほか資格取得へのサポート体制を整えていく		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム間の情報や交換会、サービス事業者連絡会・地域包括支援センター主催の講演会や勉強会への積極的な参加を促していただいている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の居所により、居宅ケアマネ・施設職員等より情報を得た上、ご本人と面談を行い、不安や要望などを聞き取り、会話や説明を行うことで安心や信頼関係を築くように努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時・導入後共にご利用者・ご家族・計画作成者・看護師等と管理者での話し合いの機会を持ち、信頼して頂くように努める。心配事については連絡の機会を多く持つ		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初から様々なサービスを進めるのではなく、まずは生活の場として安心して日常生活が送れるよう援助している。その後、身体の状態など必要に応じて他のサービスの検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者と生活を共有し、散歩や体操、食後の片付け等を通じて関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族それぞれに事情が違うことを踏まえ、ご利用者と施設がより良い関係を保持出来るよう連絡を密に取り、共にご本人を支えていく姿勢を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と自宅へ戻る、職員と一緒に馴染みのある祭りや公民館の催事に参加する等の支援を行っている。(コロナ禍以前)その他近隣の美容室・理容室を定期的に利用している。	コロナ禍での感染予防のため、友人や家族の方々の来訪が制限されているが、非対面・非接触でのオンライン面会や窓越しでの対面を工夫され、交流の継続の支援に取り組まれている。またアセスメントシートを一新されたことで生活歴が支援に反映できる体制がつくられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外気浴・ドライブ・誕生会やおやつ作り等、利用者間のコミュニケーションが図れるプログラムを日課の中に取り入れ参加を促している。フロアの席も利用者間の関係に配慮し決めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙・電話等で連絡を取り、要望があればご本人・ご家族の経過のフォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で希望を聞いたり、会話の中からご本人の想いを把握して行くように努めている。ご家族からも生活歴などを聞き、個別ケアに生かしている	一人ひとりの生活歴を参考にすることで結果的に介護拒否がなくなるなどの実績を上げられている。まず生活歴を把握してもらってからケアに携わってもらうという指導方針からも本人本位の支援がおこなわれていることが伺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用開始前に訪問面談を行い、ご本人やご家族からの聞き取り(施設や病院であれば担当ケアマネ・施設職員)情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間の経過とともご利用者様の状況も変わっていくため日々現状の把握に努める。月1回のカンファレンスや必要時は臨時にも行い情報を共有していく		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント・ご本人ご家族の生活に対する意向を伺いながら介護計画を作成する。そのために必要なモニタリングを見直し、職員全員で現状に即した介護計画作成に取り組んでいる	利用者、家族、かかりつけ医、看護師、介護職員等から総合的に情報が把握できるようにアセスメントシートが変更されている。その情報をもとにカンファレンスでは利用者ごとの対応が検討され、介護方法の工夫が話し合われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を中心に気づきや注意する点を業務日誌で全員が周知し、カンファレンス時に見直しや実践で生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人で使う日用品や衣類等、家族に代わって職員が購入することが多い。外部給の受診も家族が付き添えない場合は職員が同行している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の祭り等の催事への参加に努めている。施設での行事の際には、ご利用者の状況にあった様々な地域ボランティアの方々の協力をいただいている。(コロナ禍以前)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診と看護師の体制が構築されている。ご家族に説明が必要な際は医師や看護師が説明を行い、専門医の受診が必要な場合においてもご家族の意向を確認している。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。医療に関する情報の共有や主治医との連携に力が入れられており、適切な医療を受けられるようサポート体制がつけられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師や訪問診療の看護師に24時間体制で連絡が取れるようになっている。また必要があれば医師が往診してくれる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の日常の情報を提供し、安心して入院生活が送れるよう支援したり入院中のご本人の状態を把握し、ご家族や病院関係者、訪問診療医との連携を密に行い、早期退院に向けての支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居申込時に重度化した場合の説明を行っている。終末期のあり方については訪問診療や看護師と共にご家族の意向を聞き取り、支援のあり方について検討している。	終末期への対応については、事業所ですること明確にしながら、職員教育が計画的に進められている。十分な話し合いのもとで取り組めるようにチームの連携強化に努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応については、消防署の救急隊にご指導いただき救急救命訓練を行っている。また、看護師による研修もしている。救急対応マニュアルを設置し、冷静な対応を心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防・避難訓練では、日中・夜間想定訓練を行っている。	感染予防のため、地域住民の方々の訓練参加は中止されているが、避難訓練、備蓄の点検やハザードマップの確認、設備点検の実施など日ごろの対策は継続されている。	災害は特に予測不可能なことで職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、定期的な避難訓練の実施とともに状況にあわせた工夫や備品の整備等を継続していくことが期待されます。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩方として尊敬の気持ちを持ち、その方に合わせた対応を心掛け接している。居室絵の訪問、入浴や排泄等ご本人へのプライバシーには十分配慮している	日々のケアの中での配慮や注意点に関しては勉強会やミーティングの場で話し合いが行なわれている。その人らしさを大切にしたケアの事例を通して考えることで、職員全体での共通理解に繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人との会話を大切に、思いやりや希望を傾聴したり、ご本人の行動から思いを汲み取って自己表現や自己決定できる環境づくりに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様との関わりの中で気分や体調を考慮し希望に沿ったケアを心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で選択できる方には季節に応じた衣類の選択をお任せし、できない方については季節感や色彩に注意して組み合わせしていく		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立を掲示し、楽しみにして頂いている。配膳は職員が行っているが、盛り付けや片づけは一緒に行うようにしていく。月に1回は食事やおやつづくりを皆さんで行い意欲やできる能力を引き出していく	家庭的な食事の風景を意識し、好みや希望が把握されている。季節感やイベント的な楽しみも感じられるように、メニューも配慮されている。また家庭菜園の野菜を収穫して料理する楽しみも支援をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理済の食材を提供しているので、栄養バランスが保たれている。他栄養補助食品や果物の提供や、水分についてもお好みの飲み物を好みの温度で提供している。水分量は確保している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い口腔内清潔を心掛けている。湯食後は義歯を預かり洗浄液にて消毒している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシー保護に配慮し、さりげない声掛けと誘導、時間を考慮した誘導を行う等自立に向けた支援に心掛けている。	一人ひとりの排泄の状況が把握され、時間帯や体調の変化に応じて介助方法を変え、成功事例は情報共有することで失禁を減らす取り組みにつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝リハビリ体操を実施。また、1日を通じて水分補給を促している。必要な方には排便の管理も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2~3回入浴されている。基本的には曜日は決められているが、体調や気分によっては変更する等柔軟に対応している。	利用者それぞれにあった入浴の方法や注意点は職員間で話し合わせ共有されている。気持ち良く入浴できるように環境が整えられ、二人対応での介助や、入浴後のスキンケアの配慮など個々にそった支援が実施されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には日課に沿って生活していただいているが、休息の時間も組み入れ、無理強いをせず個々の意向を尊重した支援を行っている。室温調整も個々の状況に合わせて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方薬の管理に細心の注意をはらい誤薬・飲み残しのないように確認を行っている。服薬後の状況については主治医との連携を取っている。て症状に変化があった場合には24時間看護師に相談できる体制が整っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のADLを把握し、それに合わせた役割を提供し、やりがいのある楽しい生活の支援を行う。好みに合わせ飲み物等の提供、リハビリ体操や散歩・日光浴で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を肌で感じて頂けるよう外気浴を取り入れたり、ドライブ、地域のお祭りの見学等戸外に出る機会を設けている。ご家族との外出も体調を整える等、実現出来るよう支援している。(コロナ禍以前含め)	感染予防のため、密を避けた外出の企画が実施されている。個別の散歩や外のベンチで四季折々の花を見ること、季節の野菜の生育を観察することで季節を感じてもらったりできる工夫がされている。徐々に外出の機会も増え、初もうでやドライブを楽しまれている。	

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している方はおらず、立替金として必要時にはご家族了承の上で使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙の対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間であることから、色・音・匂いに配慮している。リビングには季節の花を飾る、季節に合った作品を飾るなど季節感を取り入れている。各居室、共用スペースには温度・湿度計を設置し適切な室温調整を行っている。	自然の光が入る風通しの良い空間でゆったりと過ごせる共用空間となっている。また、季節を感じる飾り付けや季節の花を活ける、入居者の表情がうかがえる写真を掲示するなどの配慮もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室、リビング、食堂では独りの時間を過ごしたり他者とのコミュニケーションを図ったり、作業をする等、思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人の使い慣れた馴染みの家具等をお持ちいただけるよう依頼し、見慣れた物に囲まれ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	それぞれの利用者の生活スタイルやこだわりを尊重し、本人が過ごしやすいことが重視されている。思い出の写真や自分の塗り絵作品を飾るなど、その人らしい居室づくりが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員はご利用者個々の出来る事、分かる事を把握。施設設備にわかりやすい案内表示をつけるなど自立支援に向けての工夫をしている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームあおぞら川角

## 目標達成計画

作成日: 令和 5年 5月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍で地域住民との交流の機会が減っているが、今までの実績を基に登下校の挨拶運動やこども110当番制度への登録など地域交流を増やす。	地域との関わりを増やし、感染予防を行い、対面の挨拶運動からスタートする。	・子ども110番の登録。 ・挨拶運動を行えるように業務プログラムの見直し後に実行。	3ヶ月
2	35	定期的な避難訓練の実施とともに状況に合わせた工夫や備品の整備などを継続。	消防訓練以外でも、定期的に避難訓練を実施。災害対策としての食品の備蓄一覧表の中に賞味期限を記載する。	・2ヶ月に1回を目標に避難訓練を実施。 ・災害対策用の食品の保管場所と有効賞味期限を職員全員全員に知徹底する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。